



復刊第68号  
題字 吉岡弥生

### コンコードルームの思い出

会長 三 神 美 和

春も過ぎ、夏を越して秋となった今日この頃、時間の関係で前会誌に間にあいませんでした春の総会の議事録も本会誌に出ることになりました。責任感に燃えている編集部の方々の熱意にほだされて、私も何かを書かねばならない破目になりました。思えば春から夏にかけて大変お世話になった京王プラザホテルの広間は思い出多い所です。ですので思いつくままに広間についての思い出をつづることにしました。

第一に思い出されたのは、五月十七日の日本女医学会総会場のことであります。その時のことは、かなり遠い記憶になっておりますが、緊張した質疑応答の数々は、未だ生々しく思い出することが出来ます。また役員選挙で混乱した光景も眼の奥に焼きついております。

しかし役員選挙にこれ程の熱気がこもるようになった日本女医学会の成長を心ひそかに喜び、また選挙ということからは、人の心の争いを一層かきたて、平和を攪乱するものだという思いを深くしたものでした。時は五月、外は春の暖かさに包まれていたのに、広間の中は冬のような冷々としたものが感じられました。

第二の思い出は、八月二十二日の夜の光景であります。待ちに待った国際女医学会第十五回会議を明日に控えた前夜、参加人員一千名を越えて催された歓迎レセプションの光景であります。

ホテル側の好意によって、気持よく飾られた会場に並べられた豊富な料理、美しく着飾った会員の笑顔、外人との交歓など、時の過ぐるも知らぬ風景でした。

### 国際女医学会会議を終えて

副会長 山崎倫子  
国際女医学会 前事務総長

日本で初めて開かれた国際女医学会第十五回国際会議も去る八月二十七日無事終了致しました。内外の参加者併せて一、〇〇〇名を越え、誠に盛大かつ華やかな会議でございました。参加下さった諸会員、同伴者の皆様から、素晴らしい会であったとおほめをいただき、準備、運営万端に当りました組織委員一同感激し共によろこんでおります。

このような会を持ち得ましたことは、組織委員の努力はもとよりですが、全国の会員諸師のご協力とお励ましによるものと深く感謝申し上げます。ふり返りますと準備の緒について以来、経済的にも精神的にもいい難い苦しみと不安の二年十月でございました。しかし、会員諸師をはじめ、外部では諸官庁、諸団体、特に厚生省、日本医師会、その他、多方面からの温いご支援によりこの成果をみる事が出来ました。

特に次々に出される日本女医学会の余興に、出席者一同感歎の声をあげ、心の底から満足の色を示された外人会員の様子が思い出されます。この夜のコンコードルームは楽しさと笑いとが満ち溢れていました。

第三に思い出されるのは、国際女医学会第十五回会議の開会式の様子であります。午前九時二十分、一同着席直後、会場の光は消され、暗転を合図に助六太鼓の「はらわた」にしみ通るような力強い響きが鳴り始め、会場は一瞬にして静まり、このしじまの中で一同暫しの間太鼓をうつ人の仕事と、その響きに時を忘れていました。太鼓がうち止み、電灯がともされると同時に国歌「君が代」が斉唱され、これに和して壇の後方からスルスルと国旗が掲揚されたのであります。この演出の素晴らしさは、あとにつづいた小野国際女医学会長の開会宣言、田中厚生大臣、武見世界、日本医師会長の祝辞を一層ひきたたせたと思えます。

最後に印象に残るのは国際女医学会最後の夜、パンケットの行なわれた広間の表情であります。広い部屋の隅隅までテーブルが並び、その両側は、各人思い思いの趣好をこらした美しい衣装をまとった一、一〇〇名の参加者によって占められておりました。一段高い壇上には国際女医学会会長始め国際女医学会の役員が並び、感謝と交歓に充ち溢れた挨拶、場内また喜びと笑いの渦に包まれ、この広場は一段と光彩を放ち、春の野を見るような光景でした。時間の過ぐるのも忘れ、参加者はただその雰囲気の中で酔っておりました。万事終ったという解放感と満足感にみちた人びとの表情は、得も言われぬ美しさでした。私共はこの最後の場面をいっまでも忘れることなく持ちつづけ、国際親善と人類の平和のために努力しなければならぬと思えました。

最後に私共の色々の思い出を残してくれたコンコードルームに感謝の意を捧げたいと思えます。

**P2**

表紙の裏の P2 目の印刷が P4 の内容となっており、再度印刷し直されたようだが、記録がこちらには入っていなかった。

世界各国の女医の方々と接触し、真心でおつき合い願いたい。本年度の国際交流については、九月タドロリ

ー先生(国際女医学会 学術委員長)、レッドショー先生(東太平洋地区国際女医学会副会長)が夫々来日された。オーストラリアのミセス・ギャレットが本年三月十八日亡くなりお悔みした。本年一月十八日、日本女医学会

名誉会員竹内茂代先生の葬儀の際、国際女医学会より弔電をいただいた。国際女医学会会費は、本年度分、千五百七十七人分及び昨年の追加分二百二十七人分と例年の寄付金五百ドルを送金した。日本女医学会より二百ドル、国際ファンドより三百ドルである。国際ファンドは、前会長モラー

ニ先生よりすすめられ、日本女医学会では、パリ会議の残金で設立され、現在六百八十万円たまっている。これは皆様と相談して

一、発展途上国にある女医学会及び女医への援助。  
二、地域的また国際的に学術講演会及び研究会を行う。  
三、国際交流に寄付する。  
四、将来、学生及び研究員の交換等に用いることが望ましい。

次に第十六回国際女医学会は、一九七八年ドイツのベルリンにおいて行われる。  
演題は、マスメディアとメディスン(医学と報道機関) 一九八〇年、第十七回国際会議については、東京会議において場所と演題が決められることになっている。本年度も国際女医学会

五十年会員が表彰されるが、日本の会員は、約三十名位おられる。ご協力を切に願う。

○議長選出  
定款第二十六条により出席会員の互選によって議長の選出を計ったが、会長一任の声により、三神会長より至誠会 今野 信子氏  
多田 深雪氏  
鶴風会 倉島 撰子氏  
加多乃会 富山 艶子氏  
紹介今野信子氏より発言

四名の議長団にて相談の結果  
第一号・第二号議案 今野氏  
第三号議案 倉島氏  
第四号議案 富山氏  
第五号・第六号議案 多田氏

とわけて受持分担保を發表、議案にはずれた質問は受けない旨、宣言された。  
議事  
第一号議案  
(一)昭和五十年収支決算報告  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告8頁9頁参照)  
質疑応答  
○伊藤氏(静岡県)  
五十年年度の収支決算をきいたが、事業報告の議題がないのはどういうわけか? 事業計画と、収支決算は密接な関係があると思うが。

○熊手氏(福岡県)  
そのことは本質論である。こういう議題がはじまってからの提言で

は遅いと思う。執行部で心得て頂きたい  
○福永理事  
事業報告については、事業部及び会長の説明を願う。  
○山口理事  
では事業報告も、収支決算報告と一緒に採決を求めたい。  
○小栗氏(豊島区)  
雑収入の銀行利子について細かいことを書いて頂きたい。  
○福永理事  
銀行利子二十九万三千二十八円は、財産当座預金、振替預金、金銭信託などの合計である。くわしくは守安理事より。  
○守安理事  
財産目録は、三月三十一日の時点で、監事監査も受けているが、その時の預金銀行利子の残高である。金銭の移動については、監事二名の方に、綿密な監査を受けているので、ご承認がいたい。  
○賀集氏(大阪府)  
会費が何名でいくら、寄付金はどの方面から幾ら位の大まかな点は、報告願いたい。特別会費とは何であるか。  
○福永理事  
特別会費は、皆さんのご努力によって年金に入っている方の本部の手数料である。寄付金、一般寄付金、その他の収入の部の説明あり、支出の部での吉岡弥生賞、女医の実態調査費、国際渉外費の説明あり。

○小栗氏(豊島区)  
予備費は、支出がオーバーしたとすののためのものだが、その予備費が、さらにオーバーしたときに、どこから出したか説明が必要と思う。

○福永理事  
予備費が当初予算よりオーバーした根拠は三月二十二日日本女医学会が裁判に提訴され、そのための弁護士料である。  
○大川氏(宮城県)  
国際女医学会の納入の仕方について当初予算は八十一万円なのに、小野会長が行って二十四万円オーバーになっているのは何故か。  
○福永理事  
一九七四年は千三百五十名分の予算であったが、二百二十七名追加するように話があったので……詳しくは小野国際女医学会会長に。  
○小野理事  
昨年、会長、副会長会議がウィーンで開かれ会費の討議があった。各国女医学会にアンケートで問合せがあり、日本女医学会は、新卒分二百二十七名と出た。理事会に於いて払ってよいということになり二百二十七名分追加された。  
当初外貨を出すことが困難な時に、龍先生、佐藤やい先生が、日本女医学会は千人分払うことに交渉し現在は千三百五十名で、来年からは、千五百七十七名分は払えるので、予算はこのようにした。  
○今野議長

○福永理事  
いろいろ議論もあろうが、この問題は昨日の評議員会で承認を得、監事の方の証明もあるし、印刷物もあるもので、よく原簿を見て頂くことにして採決したい。理事者側には、私共会員として、今後プリントを作る際、利子の出所、その他の明細を親切にお書き願いたい。「異議なし」の声。  
五十年事業報告及び五十年収支決算報告を承認。  
ルーベンダン特別会計  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告10頁参照)  
○大西氏(中央区)  
ルーベンダンで大変収入が多くなったというが、当初これを考案された小出氏に感謝したい。(拍手)  
ルーベンダン特別会計承認  
(三)財産目録  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告11頁参照)  
質疑応答  
○伊藤氏(静岡県)  
校債というのはどの学校のものか。  
○福永理事  
東京女子医科大学の校債である。  
○伊藤氏(静岡県)  
他の学校もあるが、事務所が至誠会内であって便利のためか。  
○福永理事  
他の学校のものは求めていない。

いろいろ議論もあろうが、この問題は昨日の評議員会で承認を得、監事の方の証明もあるし、印刷物もあるもので、よく原簿を見て頂くことにして採決したい。理事者側には、私共会員として、今後プリントを作る際、利子の出所、その他の明細を親切にお書き願いたい。「異議なし」の声。  
五十年事業報告及び五十年収支決算報告を承認。  
ルーベンダン特別会計  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告10頁参照)  
○大西氏(中央区)  
ルーベンダンで大変収入が多くなったというが、当初これを考案された小出氏に感謝したい。(拍手)  
ルーベンダン特別会計承認  
(三)財産目録  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告11頁参照)  
質疑応答  
○伊藤氏(静岡県)  
校債というのはどの学校のものか。  
○福永理事  
東京女子医科大学の校債である。  
○伊藤氏(静岡県)  
他の学校もあるが、事務所が至誠会内であって便利のためか。  
○福永理事  
他の学校のものは求めていない。

いろいろ議論もあろうが、この問題は昨日の評議員会で承認を得、監事の方の証明もあるし、印刷物もあるもので、よく原簿を見て頂くことにして採決したい。理事者側には、私共会員として、今後プリントを作る際、利子の出所、その他の明細を親切にお書き願いたい。「異議なし」の声。  
五十年事業報告及び五十年収支決算報告を承認。  
ルーベンダン特別会計  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告10頁参照)  
○大西氏(中央区)  
ルーベンダンで大変収入が多くなったというが、当初これを考案された小出氏に感謝したい。(拍手)  
ルーベンダン特別会計承認  
(三)財産目録  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告11頁参照)  
質疑応答  
○伊藤氏(静岡県)  
校債というのはどの学校のものか。  
○福永理事  
東京女子医科大学の校債である。  
○伊藤氏(静岡県)  
他の学校もあるが、事務所が至誠会内であって便利のためか。  
○福永理事  
他の学校のものは求めていない。

いろいろ議論もあろうが、この問題は昨日の評議員会で承認を得、監事の方の証明もあるし、印刷物もあるもので、よく原簿を見て頂くことにして採決したい。理事者側には、私共会員として、今後プリントを作る際、利子の出所、その他の明細を親切にお書き願いたい。「異議なし」の声。  
五十年事業報告及び五十年収支決算報告を承認。  
ルーベンダン特別会計  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告10頁参照)  
○大西氏(中央区)  
ルーベンダンで大変収入が多くなったというが、当初これを考案された小出氏に感謝したい。(拍手)  
ルーベンダン特別会計承認  
(三)財産目録  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告11頁参照)  
質疑応答  
○伊藤氏(静岡県)  
校債というのはどの学校のものか。  
○福永理事  
東京女子医科大学の校債である。  
○伊藤氏(静岡県)  
他の学校もあるが、事務所が至誠会内であって便利のためか。  
○福永理事  
他の学校のものは求めていない。

いろいろ議論もあろうが、この問題は昨日の評議員会で承認を得、監事の方の証明もあるし、印刷物もあるもので、よく原簿を見て頂くことにして採決したい。理事者側には、私共会員として、今後プリントを作る際、利子の出所、その他の明細を親切にお書き願いたい。「異議なし」の声。  
五十年事業報告及び五十年収支決算報告を承認。  
ルーベンダン特別会計  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告10頁参照)  
○大西氏(中央区)  
ルーベンダンで大変収入が多くなったというが、当初これを考案された小出氏に感謝したい。(拍手)  
ルーベンダン特別会計承認  
(三)財産目録  
福永ひろ子理事  
(第二十一回定時総会会務報告11頁参照)  
質疑応答  
○伊藤氏(静岡県)  
校債というのはどの学校のものか。  
○福永理事  
東京女子医科大学の校債である。  
○伊藤氏(静岡県)  
他の学校もあるが、事務所が至誠会内であって便利のためか。  
○福永理事  
他の学校のものは求めていない。

便利のためのみではない。「吉岡弥生賞」の基金一千万円を荒川先生からご寄付頂いたが東京女子医科大学の校債にしてあるものを頂いたので、その後も、学校債になっている。

○今野議長

財産目録について承認頂き度い。(異議なしの声)承認。

○剩剰金処分案

(第二十一回定時総会会務報告12頁参照)

○田監査報告

○戸田監事

私ども監事三名は五十年年度の事業執行並びに、収支決算、ルーベندان会計、財産目録、剰剰金の処分等を、四月十五日詳細に見た。その結果、何ら指摘することがなかったので報告する。

監査の結果を承認。

○丙年金会計報告

(第二十一回定時総会会務報告13頁参照)

○国際女医学会ファンド

何れも説明省略。

第二号議案 五十一年度事業計画案について

柳瀬 路子理事

(第二十一回定時総会会務報告15頁参照)

○質疑応答

○福田氏(杉並区)

一千万円以上の予算で、たった二十五万円の支部助成というところはあまりにも少ない。支部を隆盛に

しなければ、本部はなり立たない、会費の一割か二割、出来れば三割、五割というのが本当でないか。まだ無理だと思いが、その線にそった考えをもって頂きたい。

○柳瀬理事

会計にも関係して来るので、会長の決裁するところと思うが、理事会にかけてご趣旨に沿うようにしたい。

昭和五十一年度事業計画 承認。

第三号議案 会費値上げについて

○倉島議長

会費値上げについて理事者側の説明求める。

○三神会長

決算報告にもあったように、現在迄は特別寄付、ルーベندانなどでやってきたが、物価高騰、また郵便料が上り、人件費その他のこともあり今迄の二千五百円ではやってゆけない。また十年間未納の人が沢山いるが、その方達にも会報を送っている。理事会の提案として五千円としたが、昨日の評議員会で、一度に値上げすると、地方の方など、脱退する人も出るとの意見も出た。会費の中には国際女医学会の会費六百円も含まれている。四千円では事業が出来ないので、四千五百円という線で評議員会の賛成を得た。ご審議願いたい。

○質疑応答

○会員

地方の方はこういう会にも出席しにくいので、先ほどの支部助成を

考慮願いたい。

○会員

会費の値上げは反対しないが、五十一年度全予算千九百四十八万二千五百六十六円もあって、支部の助成は二十五万円では低い。本部が郵送料が上れば、支部も上るのである。会費値上げのために支部の助成も上げるのが妥当である。会費値上げに際して、支部助成値上げを決議されたい。

○熊手氏(福岡県)

二千五百円だったから四千五百円に上げる線は妥当と思うが、何のメリットもないのに四千五百円も納めたくないというのが本当の心情である。会が大きくなって来たから必要というのだからけれど世帯を小さくする方がよいと思う。

○会員

会費は高くても、払いたいと思うような会費なら払うと思う。いろいろな報告など、末端会員には不親切である。親切な情報の伝達、交流にも費用をかけてもらえれば値上げは納得されると思う。

○福田氏(杉並区)

支部助成を理事会にまかせると、来年度しか実行出来ない。本年度予算は今日の大会で決まるのであるから、会費値上げについては、支部助成も上げるということを付帯条件としたい。

助成金が百円、二百円とか小さなことを言う前に、助成金というものが果して必要であろうか。本部

を盛り上げる心があるなら、百円二百円のことを言わないで、本部と支部とのつながりを密にするという精神的な面でやってゆくのがよいと思う。

○小出氏(高知県)

郵送料が高いというが、各県、各個人で振替貯金を持つと高くつかない。

○倉島議長

四千五百円に付帯事項をつけての賛成の方、拍手願います。

○拍手

○倉島議長

次に付帯事項の要らない、ただの会費値上げに賛成の方(拍手多数)

会費値上げは、そのまま四千五百円に値上げすること 承認。

第四号議案 会費長期滞納者の取り扱いについて

○富山議長

会費長期滞納者の取り扱いについて、理事者側の説明を求む。

○三神会長

十年以上の未納は七百二十六名あり、再三督促しているが、未納のままである。会計の処理も困るので、自然退会の形にしたい。評議員会でも賛成を得ている。

○質疑応答

○野村氏(葛飾区)

昨年二月、臨時総会を開いてほしいとの提案者が、九百何名あったが、全会員の五分の一に満たないから認められないという答であっ

た。そのとき会費を納めている会員が二千五百何十名と聞いていた。そのことについて質問したとき、会長が、十年以上未納の人でも、会員として認めるという答であったが、今でもそれは変わらないか。

○三神会長

去年の甲府会議のときも提案があったが、今迄定款に、長期未納者は除名するという項目がある。長期をどう扱うかが去年の総会にも出たが、理事会でも検討して、三年、五年というより、十年位にというところで改めて、ここに提案した。こんなに多勢になると、会計に響くので理事会として提案したのである。

○福永理事

十年以上の会費滞納者は、会計面では一万七千円以上になり、七百二十一名が十年滞納すると、金額として千二百三十四万二千円となる。この未納をかかえてなおこの方達に、名簿も会誌も送っていた。この際ご検討頂きたい。

○会員

五年以上滞納しているのは何か理由があると思う。理由を聞いてあげる温かい心づかいがほしい。

○富山議長

一般論でなく当面どうするかということである。本部としては、十年以上未納の方は、その人の人権を汚さないようにして、自然退会の方向に進むことで如何。

○野村氏(葛飾区)

現実見たわけではないが、会費を払っていても、会員でない人が、各支部に相当するし、会費を数回請求されることもあるので、検討、調査を希望する。

○福永理事

今年度、十年以上滞納していた方が支部長の御尽力により四十名払われた。

○富山議長

一人でも退会者をなくするよう、皆で御尽力願いたい。十年以上未納者に対して自然退会を認めるといふ理事者側の提案についていかがですか？

(異議なしの声) 承認。

第五号議案 昭和五十一年度収支予算案について

○多田議長

昭和五十一年度収支予算案について、理事者側の説明を求む。

○守安理事

(会務報告16、17頁参照)

質疑応答

○賀集氏(大阪府)

会議費に六十万円しかとっていないが会議内容は記録として残しているのか、残しているならば、もう少し詳しく載せて頂きたい。正確を期してほしい。短かいので、意味の違うように発表してほしくない。会員にはただ一つの情報源であるから、正確に載せてほしい。

○多田議長

議案がつかえているので、発言は

五号議案に因してお願ひする。

○賀集氏(大阪府)

後で発言の場をいただけるかどうか、お返事願ひたい。

○多田議長

それでは理事におはかりしたい。

○賀集氏(大阪府)

おはかり下さい。正しい選挙をするためには、間違つた情報を見るに困る。発言の場をもらいたい。

○多田議長

予算案だけを先に済ませて、あとでその件についてはかりたい。

○小栗氏(豊島区)

小細工はやめにして、払うべきは払い、取り立てるものは取立てる努力をしよう。それを提案します。賀集先生には、文章でも何でも、そういう機会を与えて下さい。

○大川氏(宮城県)

きょうの会の運び方にも、非常に無駄が多い。もう少し能率的な運営をしてほしい。国際会議をひかえているので、やむを得ずつながっている人が多いのではないか、いい会であれば、会費一万円でも入れてもらいたいと思うのが、本当である。代議員制にでもして、スムーズに会が運ぶようにしてほしい。会員の意思が全く反映されなかつたり、でたために伝達されたりする会の運営をしている会長の責任はどうなのか、説明願ひたい。早く選挙にしてほしい。

○多田議長

五十一年度収支予算案は承認頂け

るか。

(異議なしの声) 承認。

第六号議案 次期総会開催地について

○多田議長

第六号議案 次期総会開催地を、どこにするかについて理事者側の説明を求む。

○三神会長

今回のような役員選挙は、事務所が東京にあるので、東京で開催したが、出来るだけ地方にゆき、地方の方に日本女医学会を意識して頂きたい。結局、都合で京都が引受けてくれることになり、来年は京都で開催することに決定させて頂きたい。

○卜部氏(京都府)

京都で開催することに、皆さんのご賛同をはかっていただいた上で引受けたい。

○多田議長

京都は東から西から、集まりやすい場所なので、ご賛同いただけるものと思うが如何。

役員選挙について

○今野議長

役員選挙については、選挙管理委員会が設けられている。その人数構成について、理事者側から説明を求む。

○久保田理事

三同窓会から九名ずつ二十七名、その他の方々から三名、合計三十名の選挙管理委員並びに立ち合いを兼ねて頂く。

詳細は、選挙管理委員長から話して頂く。

○友野選挙管理委員長

四月二十五日発行の、日本女医学会誌に記載してあるが、理事は十五名連記、監事三名で、姓名をはっきり書いてほしい。

○野村氏(葛飾区)

立候補者を会へ届け出に行つたが、選挙管理委員会が出来ていなかった。おかしいではないか。

○久保田理事

選挙管理委員会というものは、立候補者の届出前から作っておくことは出来ない規則になっている。早く作らないと皆様に迷惑だと思つたので、三つの同窓会から公平に出てもらつたのである。今後そのような意見が出れば規約を改正し、良くして頂きたい。

○今野議長

それでは役員選挙にかかると、議事は一応中止。

役員選挙

午後零時三十分 休憩 昼食  
・映画 東京小児療育園  
午後三時十分 再開

○今野議長

国際女医学会議準備報告  
国際女医学会準備報告を、国際女医学会事務総長 山崎先生にお願いする。

○山崎倫子国際女医学会事務総長

国際女医学会の総予算は一億一千万円で、現在迄、八千二百万

円集まっている。登録、会員寄付、国庫補助、雑収入などで予算が出されている。

現在まで日本女医学会員五百五十名、外国二百七十六名登録済で、なお増加の予定である。

会場 京王プラザホテルコンコールドーム

会期 八月二十二日夜の歓迎レセプションから二十七日、日光旅行まで

8.21 登録

22 登録 夜歓迎レセプション

23 午前開会式、特別講演、午後講演、ワークショップ

24 午前講演、午後総会

25 二十五日午前講演、午後病院見学、夜東京都知事主催レセプション

26 午前講演、午後総会、役員選挙、次回開催地決定。

27 閉会式、夜 晩餐会

27 日光旅行

学術委員会での論文集の制作、ヘッドホンの使用、茶室の設置、美術展の設置、お土産品等について細部にわたり報告、協力を希望する。小野会長が各国の希望を聞いて来られたのでお話し頂く。

○小野国際女医学会会長

四月二日から二十四日間、六カ国十一カ所を歩いて来た。外国の方達は日本語を少しずつ習っている

ようであるからこちらも外国語を少ししゃべれるようにしたら良いと思う。日本のお家に行つて見たような話も出たので、検討しようとする。ヨーロッパの方はお花が好きで、いけて頂いたり、教えて頂くと思はれるし、友好と文化交流でよいと思う。日本は先進国で非常に原動力があると思われているので、このような優雅な面を認識して頂くため、皆様のご協力を願いたい。

吉岡弥生賞 授与式  
受賞者

一、医学に貢献した人

藪内英子氏(大阪六)

(関西医科大学微生物学教室助教)

授  
昭和二十四年大阪女子高等医学専門学校卒)

一、社会に貢献した人

新井タネ氏(埼玉)

(開業)

昭和十五年東京女子医専卒)

両氏に三神会長より吉岡弥生賞が授与され、夫々あいさつがあった。

役員選挙報告

役員選挙開票は、選挙管理委員によって行われ、開票結果は晚餐の時間となる。(会紙六十七号)

理事三十五名、監事三名、会長・副会長・常任理事選出され、各氏、壇上にて自己紹介、挨拶が行われた。

拍手の中、八時三十五分閉会。

吉岡弥生賞候補者  
推せんについて

昭和52年吉岡賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願い致します。

締め切り期日は本年末日迄に願います。

なお次の書類を添えご推せんをお願いします。

- 一、自筆履歴書(写真添付)
- 二、業績
- イ 社会に貢献した人
- ロ 医学に貢献した人
- 三、推せん理由

学術部

日本女医学会  
定期総会懇親会の記

清水 五百子

五月十六日午前九時より始つた総会及び役員選挙、国際女医学会準備状況報告等を含めて延々午後六時十分前になつても選挙の結果が発表出来ず、止むを得ず別室に移つて懇親会に切替え、気分を新に始められた。

司会柳瀬路子氏により開会の辞を兼ね、前理事中西清子氏、湯本あさ姉の役員辞任についての所信を述べられた。次いで三神会長の挨拶に入り、本日は多数国内遠方より御参集を得て総会が出来て有難かつた。今回中西、湯本両姉には多年にわたり理事として御活躍

下さつたが御都合で辞任されることとなり、残念であるが今後ともに御健康に御留意の上日本女医学会の為に御尽力頂きたいとねがはれた。

乾杯の音頭を北沢あさを姉にとつて頂き、一同日本女医学会の発展を祈つて食事について。食事中間の頃選挙管理委員の明石美代姉により結果が発表された(既報)。

当選者による会長、副会長、常任理事の互選による選出に時間がかかり、午後七時半を過ぎる頃は三分の一位が退席され、八時には各テーブルに二、三名が残る程度となつた。八時二十分に監事添田姉により会長その他の選出の結果が報告された(既報)。

つづいて当選された各理事、監事の方々が、前方に並列されて挨拶があつた。

八時三十分今野姉より議長団解散を伝えられ、小侯副会長が閉会の辞を述べられて無事懇親会は終了した。

第二十一回日本女医学会  
評議員会議事録

稲生 襄

日時 昭和五十一年五月十五日(土)  
午後四時  
場所 京王プラザホテル 四三階

司会 コメット 熊谷美津子理事  
評議員数一三三名、出席者六三名、委任状三〇通で定款により評議員会成立。

三神会長挨拶

例年はこの評議員会は総会の当日に行われるも今年は役員改選の年である。コンピュータは使用しないので時間がかかると思ひ前日に行う事になったにも拘らず多数の御出席を得て有難く思う。

本日は議題も多いがよろしく御検討願う。

なお本年の吉岡弥生賞は  
①関西医科大学微生物学特任緑膿菌の権威者で同学助教藪内英子氏と  
②都下の寒村、秩父にて僻地診療に貢献した新井タネ氏(昭和十五年東京女子医専卒)に決定した。

この吉岡弥生賞は今年で第八回になるが歴史について未知の人が多い。これは前会長龍 知恵子先生が提案なさり、荒川あや先生が出資なさつて本会の創始者吉岡弥生先生の御名を永久にとどめたいため出来たものである。荒川先生の御厚意を謝し壇上に上つていただいて皆さんに御披露したい。

また役員改選の年であるので支部長の改選がある所もあるでしょうが、これは後日支部会を開いて後から報告していただいてもよい。

議長選出、会長に一任  
群馬県支部長岸直枝氏に決定  
会務報告 石田 妙子理事  
別紙の通り。

国際女医学会を控えて多忙を極めた。また昭和五十年度は国際婦人年だつた。

議題

(一)昭和五十年年度収支決算報告、財産目録年金損益計算報告剰余金処分案 福永ひろ子理事  
会務報告8〜13頁参照。  
質問多々あり。

国際女医学会フアンドンについて 佐野アヤ子理事

ルーベンダン特別会計について荒川あや先生より節税など考えないではっきりさせた方がよいとの発言に三神会長より社団法人日本女医学会として今年度は税金を当ててあるとの説明あり。

なお国際女医学会本部への納付金は昨年は一、三五〇名分(一人六〇〇円)だったが今年度は新卒者二二七名分を加えて一、五七七名分送つたとの小野国際女医学会々長より説明。

戸田静子監事より「監査の結果相違ない」との説明あり。

〔昭和五十一年度事業計画案〕  
柳瀬 路子理事  
助成事業として昭和四十七年度に吉岡弥生賞を受けられた林富美子先生より韓国の救済事業に助成して欲しいとの依頼がある。

また女医の実態調査については、五、〇七三のアンケートが集つて

いる。この集計数には厚生省医事課でも実績に驚いておられ、昭和五十一年度末迄に報告書を作製し

たい。  
また国際女医学会に際し記念切手を発行の申請していたが認可にならなかったのは残念だった。  
③会費値上げについて  
結果的には四五〇〇円と決定したが種々の意見あり。  
○守安理事  
値上げを前提に予算を組んだので四、〇〇〇円では二〇〇万円減となるので残念ながら事業費を削減しなくては行けない。今年度は間に合っても来年はやって行けなくなる。  
○杉 久子(岡山県)  
会員をふやす事を考えてはいかか。新卒の方に入会の誘いのパンフレットを出しては……。  
○早稲田かめ(石川県)  
地方会員としては四千元位にしてほしい。  
○仁瓶礼子(静岡県)  
地方の人は出費が多いので脱退者が出ると思うが……。  
○今野信子(新宿区)  
二倍の値上げは現今よくあるが地方の方には……。  
結局四千元と五千元の間をとって四千五百円に決定する。  
④会費長期滞納者の取り扱いについて  
一〇年以上滞納していながら会誌その他の報告をただ受取っているとはひどいと誰しも同感、一〇年で切る事に賛成し、本部からその旨通知を出す事になった。

年金加入者二三七名が五二二口入っている。会として二三三万の収入となる。  
一、〇〇〇人が一口入っても三〇〇万、二、〇〇〇口では六〇〇万の収入となるのでよろしく。  
⑤昭和五十一年度収支予算案  
守安 素女理事  
別紙の通り。  
⑥次期総会開催地について  
京都で開催を引受けて下さる。  
**故 福井繁子先生の履歴書**  
理事 橋 本 恵美子  
去る七月大阪において故福井先生15年祭が行われ、生前何らかの形で先生と触れ合った人達が大勢集りました。これを機に福井繁子像なるものを日本女医学会に知ってもらおうということでそのプロフィールの一端を記すことを引き受けたのですが、与えられた紙面では何ほどの事もお伝え出来ないのが心残りになりそうです。  
彼女は明治七年一月二十一日岡山県真庭郡久世町に、菅原道真公を祖先に持つ旧家福井家の長女として生れた。次兄、三兄とも現在の東大医学部に入学しながら志半ばにして相次ぎ病没。



福井繁子先生

気丈な彼女は兄の志を継いで医師になることを決意。ときまさに明治二十二年である。当時東京には済生学舎が創設されており、彼女を含む女子学生は吉岡弥生先生初め約二十名。一汁一菜専ら勉学に専念した彼女は医師免許証を交付されるといふ優秀さであった(明治二十六年、医簿番号七二一三六番)。東京で働くには郷里から遠すぎるという理由で当時大阪で有名だった緒方洪庵一族の総合病院婦人科に医局員として七年勤務。その後開業を始めたが折しも日露戦争最中であり、戦争終結直後一念発起してドイツに留学、マールブルヒ大学婦人科教室にてオットー博士の許三年の研究に従事、D・Eの称号を得たのちデュッセルドルフ国立病院に勤務、明治四十二年帰国し現在の東区淡路町に土地を購入し改めて福井病院を開設す。更に、昭和二年創立した阪大の病理教室でホルモンの研究に従事したとき既に年令五十才を越えていた。文字通り寝食を忘れて研究に診療に日夜没頭。やがて昭和九年日本最初の女子医学博士の誕生を見る。世の中は軍国主義突入の時代を迎え彼女の愛国精神は当然のことながら統後の守りとして大日本婦人会の中で活躍、また将来性ある多くの学生に奨学金を出して世に送り出したのも、その頃である。昭和二十年三月の大阪大空襲は福井病院も灰塵と化した。彼女が七十二才の時である。  
昭和二十二年焼跡にバラックを建てて再興に踏み出す一方、その年大阪府女医学会を生み出し初代会長となる。日

本女医学会には当然ながら戦前から吉岡会長のよき相談相手として副会長の任にありそれは死去の日まで続いた。焼跡の土地は広く彼女はそこにビルの建設をねがい計画通り昭和三十三年十一月福井ビルとして完成し、私どももお祝いにつけたものである。  
その翌年三十四年には日本女医学会(会長佐藤やい)を大阪で開催、世界女医学会からも参加者があった。しかしさしもの頭張りやさんもこの頃から少しずつ弱りが見えて来たように思えた。昭和三十六年七月二十六日八十八才で大往生を遂げられた。  
現在は御養子雅夫氏が跡をつぎ医界で活躍中である。学者であり政治家であり真のリベラリストであった女医福井繁子の名は今もなお生き生きと私の胸にシンボルとして生き続けている。ウーマンリブの声高い昨今先生は多分こうつぶやいておられるだろう。「甘ったれるな!!」と。  
**国際連絡書記報告**  
佐野 アヤ子  
Circular Letter No. 40  
June 9, 1976  
一、二、三、四、省略  
五、国連の人道主義の事務及び社会事業発展の副書記 Mrs. Helena Spila により国際婦人年において国際女医学会の活動の報告を要求されたが、各国の女医学会の報告が集った最終的に報告する返事をしました。同時に

国際女医学会は Fellowship Fund を作って将来発展途上の女医学会を援助する事、また世界各加盟国の女医の先駆者の自伝を九十集めて出版する事になっています。  
六、七、省略  
Circular Letter No. 41  
July 16, 1976  
東京会議迄の最後の通信  
一、二、三、四、東京会議出席の際の注意事項につき、省略。  
**お知らせ**  
昭和五十一年九月二十二日定例理事会において、日本女医学会定款および細則の改正についてアンケートを全会員に出すことが決まりました。その節はよろしくご協力お願いいたします。(定款は名簿にあります。細則はアンケートと一緒に送ります。)  
**理事会議事録**  
日時 昭和五十一年四月十七日  
午後三時二十分～五時三十分  
場所 至誠会館四階会議室  
出席者(敬称略)  
三神、小侯、川那部、山崎、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、柳瀬、石田、稲葉、川島、熊谷、佐藤千、白橋、竹内、中西、長池、野中、真鍋、森、森川、山口、山本、湯本、八木、派田  
欠席者(敬称略)

戸田、上田、大原、小野、藤井、  
福島、佐藤、  
庶務報告 久保田常任理事  
・昭和五十年年度退会者 一三名  
入会者 一六五名

寄贈本  
「へき地医療」厚生省医務局総務課監修  
「日本婦人問題会議議録」労働省

議事  
一、定時総会評議員会順序、司会、担当者につき検討。議長選出各同窓会より一名ずつ選出のこと。  
二、昭和五十年年度決算報告  
福永常任理事  
(別紙一)別紙昭和五十年年度決算報告書参照  
(別紙二)別紙昭和五十年年度決算報告書参照

(イ)ルーベンドン特別会計報告  
総会で承認された時点で納税することとし、引当金十三万計上す。  
(ロ)年金収入 二二三万円。  
(ハ)国際女医学会ファンド 六百八十八万円余。  
基金を各国につくること。なお使途につき国際女医学会基金委員長モラーニ女史より下記のとおり要望あり。

・国際女医学会総会の他に地域的に分科会を行う。  
・パンフレット、医学雑誌の発行。  
・発展途上国への援助。  
・留学生、研究生の交換等。  
(三)当期剰余金一五三万二五六六円

を次期繰越金にする。―承認―  
三、昭和五十一年度収支予算案(別紙二)参照  
収入の部 一般寄付三十万円を五  
十方に訂正  
支出の部 講習研究費十万円を三十  
十方に訂正  
交通費二五万円を七五  
万に訂正  
以上 ―承認―

四、次期総会開催地の件  
京都支部 ―承認―  
五、役員選挙の件  
・選挙管理委員三十名(至誠会、鶴風会、加多乃会九名ずつ、その他より三名)選出の報告あり。  
・監事は得票数順でなく、各同窓会より一名ずつ選出すること。  
―承認―  
・会長選出の件 定款第十五条により行う。  
六、会費値上げの件  
昭和五十一年度より五千円に値上げする。 ―承認―  
七、在日韓国女医の国際女医学会議参加の件  
出身校、卒業年度、日本医師登録番号、推薦状提出のこと。

臨時理事会議事録  
日時 昭和五十一年五月十五日(土)  
場所 新宿京王プラザホテル  
昭和五十一年役員改選にあたり、選挙管理委員の他に立合人をおくことにつき、数名の会員より要望書簡あり、この件につき理事に諮る。

定款施行規則第八条により選挙管理委員三十名の他に立合人を選出する必要なしとの承認を得る。  
以上 久保田 くら

理事会議事録

日時 昭和五十一年六月二十六日(土)  
午後三時半～五時半  
場所 至誠会館四階会議室  
出席者(敬称略)  
三神、小俣、川那部、山崎、稲葉、久保田、中川、野沢、福永、松岡、丸山、森川、守安、柳瀬、石田、大西、大原、川口、川島、佐野、佐藤、鈴木、竹内、野中、野呂、橋本、蓮井、平瀬、藤井、藤田、八木、山口、山本、白浜、添田、森

欠席者(敬称略)  
上田、福島  
庶務報告 久保田常任理事  
○会員物故者  
飯塚 雅子(栃木県)  
太田 淑子(群馬県) 昭和51・4・2  
和田 玉江(大阪四) 51・3・25  
西岡 逸子(大阪八) 51・5・10  
交通事故  
太田末千代(神奈川) 51・5・18  
○退会者 別紙の通り  
○昭和51・4・16 国際女医学会五十年間会員(大正十四～十五年卒)にアンケート発送  
○51・4・25 組織委員会(於至誠会四階会議室)、定時総会通知発送

○51・4・28 会誌六六号、五十年年度会務報告、ルーベンドンのちらし、会長の挨拶状、国際女医学会会議実行予算案発送  
○51・5・15 理事会、評議員会、常任組織委員会(於京王プラザホテル)  
○51・5・16 第二十一回定時総会(於 京王プラザホテル)  
出席者七三七名(当日受付二三二名)  
○51・6・1 役員承諾書類発送  
○51・6・12 常任組織委員会(於京王プラザホテル)  
○51・6・14 (評議員(支部長)委嘱状、五十年支部助成金十年間以上会費滞納会員調査表)支部長へ発送  
長期滞納者六六一名に対し会費納入依頼状発送  
○51・6・17 女医実態調査に対する補助金交付申請書提出  
国際女医学会会議参加者に対し、登録関係ハガキ発送  
○51・6・24 昭和五十一年度役員就任登記済  
その他  
○河上悦子(青森支部)年金掛金二九万六千九百四十円寄付申出あり。  
○長嶋和美(事務職員)退職  
○光のプレゼント(日本文化協会)より寄付依頼状あり。  
会計報告 守安常任理事  
四月、五月会計報告 ―承認―

下記の通り)  
現在までの役務部門―庶務、会計、渉外、事業に昭和五十一年度より、学術を加え、広報に編集は含まれる。  
以上 ―承認―  
会計…福永、守安、川口  
庶務…久保田、松岡、大西、上田、竹内、野中  
事業…柳瀬、藤田、八木、石田、川島、蓮井  
渉外…中川、山本、佐野、平瀬、鈴木  
広報…丸山、野沢、橋本、藤井、山口  
山崎  
学術…森川、稲葉、大原、野呂、佐藤、福島  
二、国際女医学会の件  
・国際女医学会理事…MWIA委員会に対し一人の理事と会員二百名毎に一名の理事を代表としておくる。ただし五名以上の理事を出すことはできない。  
・日本女医学会よりMWIA理事として…三神、山崎、佐野、大原、中村西子、以上五名  
・評議員二五名…登録済みの理事の中より選出する。  
三、国際連絡書記について  
役員改選期にあたり定款施行規則(第四章)通り国際連絡書記を選出すべきではないかとの発言あり。会長一任ということになる。  
三神会長…国際女医学会第十五回国際女医学会を終了するまで佐野国際女医学会連絡書記ということと

一、理事役務担当の件(順序不同、議事  
○51・4・25 組織委員会(於至誠会四階会議室)、定時総会通知発送



P9

表紙の裏の P2 の印刷が P4 となっており、再度印刷しなおされたようだが、  
記録がこちらには入っていなかった

新評議員(支部長)一覽表

Table listing new evaluators and branch presidents. Columns include: 支部名 (Branch Name), 氏名 (Name), 郵便番号 (Postal Code), 住所 (Address).

Table listing members and their details. Columns include: 支部名 (Branch Name), 氏名 (Name), 郵便番号 (Postal Code), 住所 (Address).

定時総会の議事録を重点に編集しました。また発言された会員のお名前が分らず発言内容のみ記載した部分が数カ所あり、発言者に対し大変失礼なことになりました。こうした点も今後改められねばならぬことかと思ひます。
◎第十五回国際女医学会会議も無事終了いたしました。この詳細は特集号として後日発行予定、目下その準備に取りかかっています。会議に参加された先生の感想、トピックス、こぼれ話等、随筆のご投稿をお待ちいたします。紙面が賑やかになります。(四〇〇字)六〇〇字、締切十一月上旬本部宛)。
広報は今後下記五名で担当します。
丸山 芙美、野沢 良美、藤井 傳子、山口 三重、橋本恵美子 (丸山記)

昭和五十一年十月二十日印刷
昭和五十一年十月二十五日発行
編集人 丸山 芙美
発行人 日本女医学会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河内町19
社団法人 日本女医学会
TEL (31) 〇九六八
印刷所 東京都港区白金五丁目一
興業美術印刷株式会社